



株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

## 2023年3月期 中間期決算説明会

代表取締役社長 CEO 山本靖則 | 2022年11月8日

# 01 決算概要

# 業績サマリー

<p>売上高・営業利益ともに 過去最高</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高 : 中国ロックダウンの影響や部品・部材不足での生産遅延が生じたものの、為替の影響をプラスに受け2期連続で過去最高を更新</li> <li>・営業利益 : 人的投資、研究開発などの成長投資や部材高騰の影響を受けたものの、価格改定や為替影響をプラスに受け、過去最高を更新</li> </ul>
<p>計測・医用・産業 過去最高の売上高</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測 : 日本は、GX関連でGC・試験機が増加。新型コロナウイルス検出試薬キットも売上を維持 海外は、製薬向けLCが好調に推移し、為替影響をプラスに受け増収</li> <li>・医用 : 日本は、血管撮影システムの新製品・放射線治療用動体追跡システムが貢献 海外は、北米で新製品の近接型X線TVが増加</li> <li>・産業 : TMPは半導体製造装置向けや中国でコーティング向けに増加し、全地域で好調</li> </ul>
<p>計測重点機種、TMP 過去最高の売上高</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点機種 : ヘルスケア分野向けが好調で、為替影響もプラスに受け過去最高を更新 +8%</li> <li>・TMP : 半導体製造装置やコーティングシステム向けが牽引し前年比+21%</li> </ul>
<p>第2四半期(7-9月) も売上高・営業利益 過去最高</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高 : 中国ロックダウンからの回復、新型コロナ関連製品、X線装置の増加もあり 為替影響を除いても過去最高を更新</li> <li>・営業利益 : 部材高騰の影響等を受けたが、為替影響をプラスに受け1Qから大きく改善</li> </ul>

注 : 計測重点機種 (LC : 液体クロマトグラフ、MS : 質量分析システム、GC : ガスクロマトグラフ) 、TMP : ターボ分子ポンプ

# 損益計算書

第2四半期(7-9月)業績が回復し、上期業績は過去最高を更新

## 売上高

前年同期比：+198億円/+10%

2,219億円

## 営業利益

前年同期比：+1億円/+0%

289億円

## 営業利益率

前年同期比：▲1.3pt

13.0%

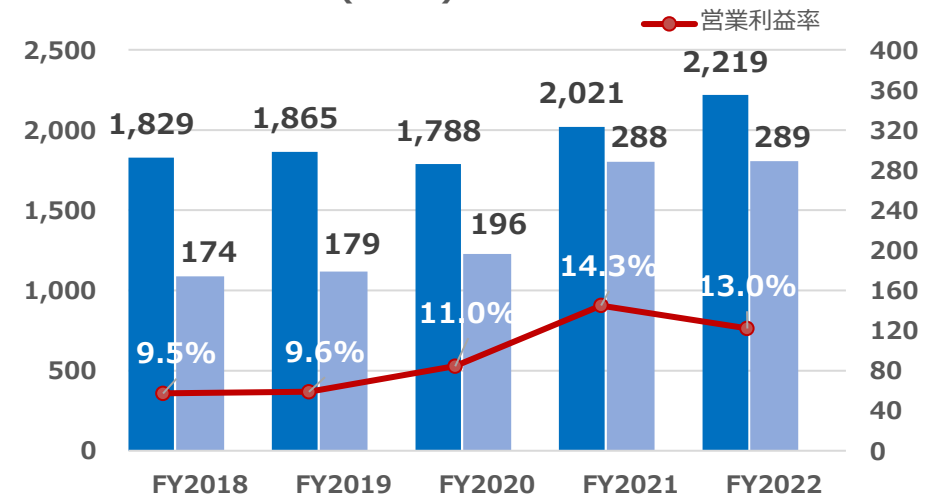
## 当期純利益

前年同期比：+40億円/+20%

245億円

	単位：億円	中間期(4月-9月)			前年同期比	
		FY2020	FY2021	FY2022	増減額	増減率
業績	売上高	1,788	2,021	2,219	+198	+10%
	営業利益	196	288	289	+1	+0%
	営業利益率	11.0%	14.3%	13.0%	▲1.3pt	
	経常利益	195	294	331	+38	+13%
	親会社株主に帰属する当期純利益	139	205	245	+40	+20%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	106.97	109.85	134.02	+24.17	+22%
	ユーロ(円)	121.33	130.93	138.78	+7.85	+6%
	研究開発費	71	75	87	+12	
	設備投資額	59	63	121	+58	

売上高・営業利益推移(5年間) 単位：億円



減価償却費

85億円

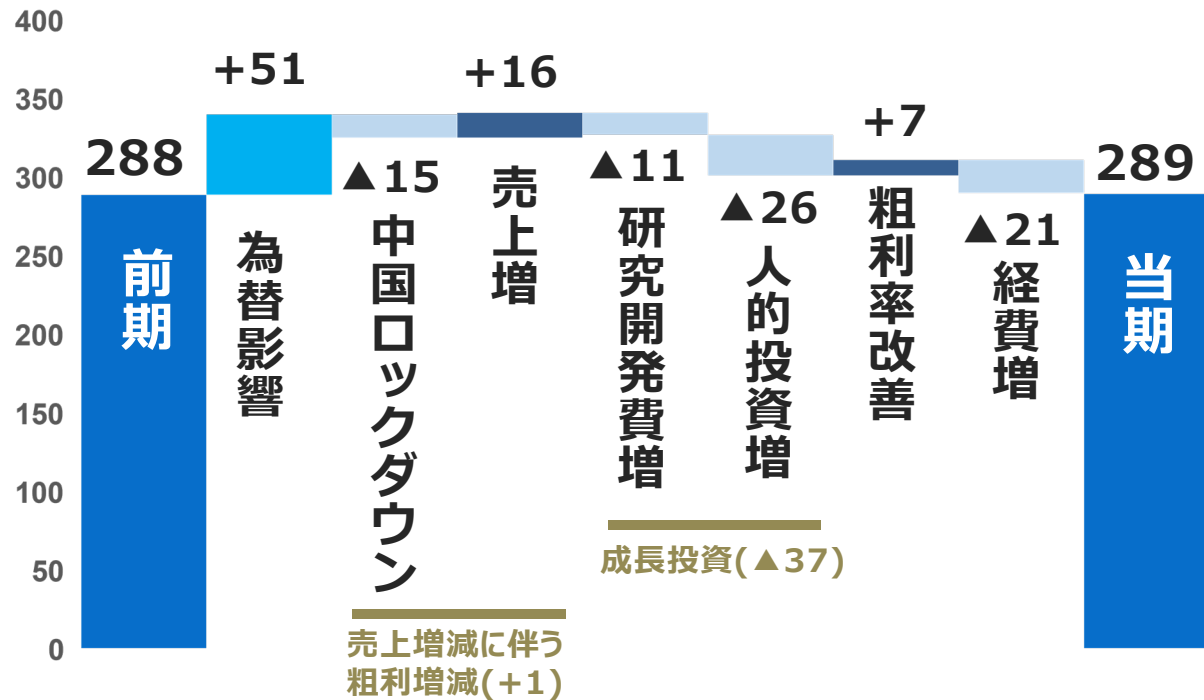
為替影響額

売上高：195億円 営業利益：51億円  
棚卸未実現利益に対する為替影響がマイナスに作用

# 営業利益増減要因(4-9月)

- ・中国ロックダウン影響：据付け件数が多く完全には解消できず
- ・成長投資：研究開発投資、人的投資を積極的に推進
- ・粗利率改善：部品・部材価格の高騰などの押し下げ要因を、価格改定・生産性向上で改善

単位億円



(億円)

	中間	1Q	2Q	備考
為替影響	+51	+19	+32	・棚卸未実現利益も増加
売上増減に伴う粗利増減	+1	▲12	+13	
ロックダウンによる利益減	(▲15)	(▲21)	(+6)	・7月以降回復
売上増	(+16)	(+9)	(+7)	・医用、産業増収
成長投資	▲37	▲26	▲11	・コロナ禍で抑制していた研究開発や人的投資を積極的に推進
人的投資増	(▲26)	(▲20)	(▲6)	
研究開発費増	(▲11)	(▲6)	(▲5)	
粗利率改善	+7	▲1	+8	・押し下げ要因(部品、部材価格の高騰)を押し上げ要因(生産性の改善や価格改定)が上回った
経費増	▲21	▲10	▲11	・物流費などが増加

# セグメント別損益(4-9月)

中国ロックダウンや部品・部材高騰影響を受ける中、第2四半期(7-9月)の業績回復により増益

## 計測機器：増収減益

売上高：+109億円/+8%  
 営業利益：▲5億円/▲2%  
 営業利益率：16.9%

- ・売上:部品部材不足の影響大、海外売上が為替影響を受け、増収
- ・営業利益:成長投資に加え、中国ロックダウンや部品価格高騰等の影響で減益

## 医用機器：増収増益

売上高：+56億円/+17%  
 営業利益：+2億円/+7%  
 営業利益率：7.6%

- ・売上: X線TV、血管撮影システムの新製品効果で増収
- ・営業利益：売上高増に伴う利益増から過去最高を更新

## 産業機器：増収減益

売上高：+36億円/+13%  
 営業利益：▲1億円/▲4%  
 営業利益率：8.5%

- ・売上：TMPが貢献し過去最高を更新
- ・営業利益：油圧機器が部品価格高騰、物流費高騰の影響を受け、全体で減益

## 航空機器：増収増益

売上高：+3億円/+3%  
 営業利益：+7億円/ -  
 営業利益率：3.1%

- ・売上：民間航空機器向け需要が回復
- ・営業利益：不採算製品の整理等で収益性を改善し、黒字へ転換

単位 億円	売上高						営業利益						営業利益率			
	FY2020 中間期	FY2021 中間期	FY2022 中間期	前年同期比			FY2020 中間期	FY2021 中間期	FY2022 中間期	前年同期比			FY2020 中間期	FY2021 中間期	FY2022 中間期	前年同期比 増減
				増減額	増減率	増減率 (除為替影響)				増減額	増減率	増減率 (除為替影響)				
計測機器	1,098	1,306	1,415	+109	+8%	▲2%	168	243	238	▲5	▲2%	▲15%	15.3%	18.6%	16.9%	▲1.7pt
医用機器	306	321	376	+56	+17%	+9%	14	27	29	+2	+7%	▲16%	4.6%	8.4%	7.6%	▲0.8pt
産業機器	205	268	304	+36	+13%	+5%	14	27	26	▲1	▲4%	▲56%	6.7%	10.1%	8.5%	▲1.6pt
航空機器	160	102	105	+3	+3%	▲5%	9	▲3	3	+7	-	-	5.4%	▲3.3%	3.1%	-
その他	19	24	19	▲5	▲21%	▲21%	2	3	3	▲1	▲16%	▲16%	6.5%	10.0%	9.4%	▲0.6pt
調整額	-	-	-	-	-	-	▲9	▲9	▲10	▲1	-	-	-	-	-	-
合計	1,788	2,021	2,219	+198	+10%	+0%	196	288	289	+1	+0%	▲18%	11.0%	14.3%	13.0%	▲1.3pt

# セグメント別第2四半期損益(7-9月)

**連結**：部品・部材不足、価格高騰影響を受けつつも、売上高、営業利益ともに第1四半期から大きく改善  
**計測**：中国ロックダウンからの回復等により第1四半期から大きく改善。第2四半期の営業利益率19.4%は過去最高  
**医用**：売上高、営業利益ともに、第1四半期から改善。第2四半期の営業利益率12.4%は過去最高  
**産業**：油圧機器が部材高騰などで減益となったが、好調なTMPがカバーし、営業利益横ばい  
**航空**：防衛で前年大口案件の反動減で減収となったものの、採算性改善の取り組み等により増益

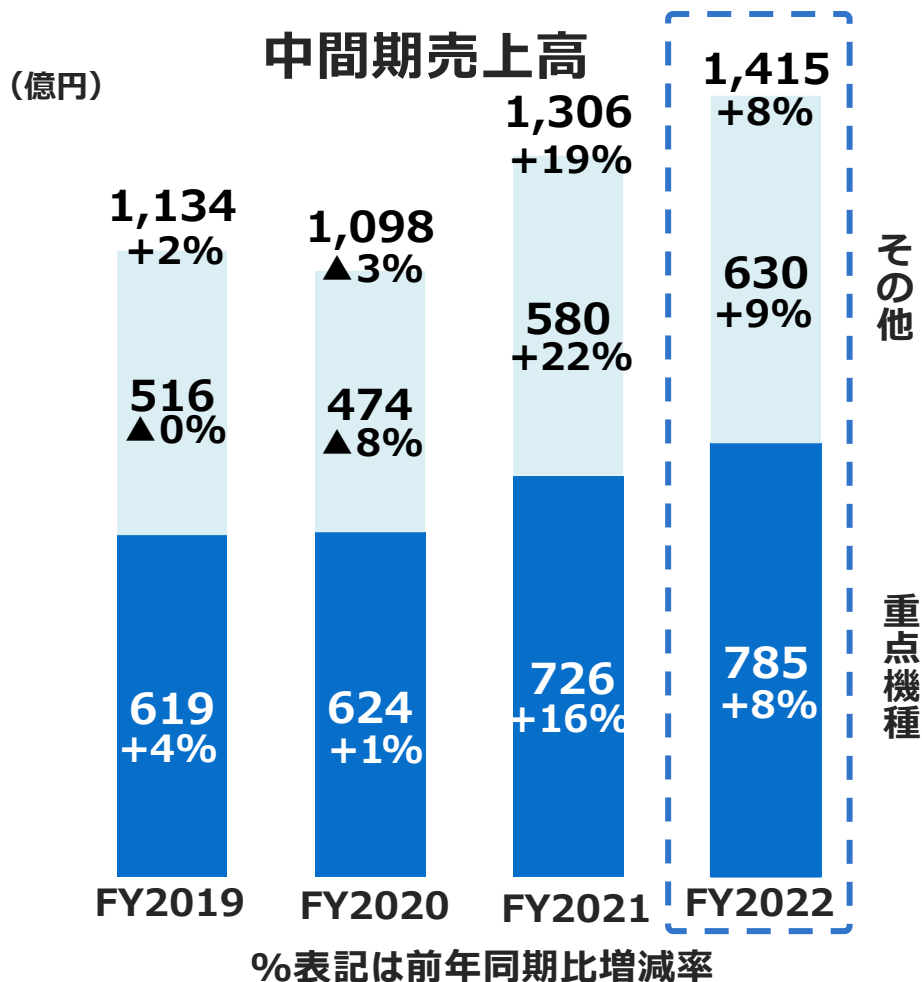
単位 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2021	FY2022	増減額	増減率	増減率 (除為替)	FY2021	FY2022	増減額	増減率	増減率 (除為替)	FY2021	FY2022	増減額	
連結	1Q	943	986	+43	+5%	▲3%	124	94	▲30	▲24%	▲39%	13.2%	9.6%	▲3.6pt
	2Q	1,078	1,233	+155	+14%	+3%	164	195	+30	+19%	▲1%	15.2%	15.8%	+0.6pt
	中間期	2,021	2,219	+198	+10%	0%	288	289	+1	+0%	▲18%	14.3%	13.0%	▲1.3pt
計測機器	1Q	613	618	+5	+1%	▲8%	110	84	▲26	▲24%	▲34%	17.9%	13.5%	▲4.3pt
	2Q	693	797	+104	+15%	+3%	134	155	+21	+16%	+0%	19.3%	19.4%	+0.1pt
	中間期	1,306	1,415	+109	+8%	▲2%	243	238	▲5	▲2%	▲15%	18.6%	16.9%	▲1.7pt
医用機器	1Q	145	164	+19	+13%	+7%	9	2	▲6	▲72%	▲93%	6.1%	1.5%	▲4.6pt
	2Q	176	212	+36	+21%	+11%	18	26	+8	+45%	+22%	10.3%	12.4%	+2.1pt
	中間期	321	376	+55	+17%	+9%	27	29	+2	+7%	▲16%	8.4%	7.6%	▲0.8pt
産業機器	1Q	130	147	+17	+13%	+5%	14	13	▲1	▲5%	▲49%	10.6%	8.9%	▲1.7pt
	2Q	138	157	+19	+14%	+4%	13	13	▲0	▲3%	▲63%	9.7%	8.2%	▲1.5pt
	中間期	268	304	+36	+13%	+5%	27	26	▲1	▲4%	▲56%	10.1%	8.5%	▲1.6pt
航空機器	1Q	41	48	+6	+15%	+7%	▲4	1	+5	-	-	▲8.7%	2.4%	+11.1pt
	2Q	61	57	▲3	▲5%	▲14%	0	2	+2	+665%	+880%	0.4%	3.6%	+3.2pt
	中間期	102	105	+3	+3%	▲5%	▲3	3	+7	-	-	▲3.3%	3.1%	-

## 02 中間決算セグメント別業績



# 計測機器/機種別売上高・アフターマーケット比率

- ・重点機種は中国ロックダウンと部品・部材不足の影響を受けたものの、海外売上高の為替影響により増収
- ・アフターマーケット比率は38%に増加



**その他**

材料試験機  
オートグラフAGX-V

新型コロナウイルス  
変異株 (L452R)  
検出試薬キット

**重点機種**

液体クロマトグラフ  
Nexera XS Inert

液体クロマトグラフ  
質量分析計  
LCMS-2050

液体クロマトグラフ  
i-Series

液体クロマトグラフ  
Nexeraシリーズ

液体クロマトグラフ  
質量分析計  
LCMS-8060NX

ガスクロマトグラフ  
GC-2030

**重点機種売上高**  
前年同期比 +58億円/ +8%

**785億円**

- ・ LCは医薬を中心にヘルスケア分野向けに増加
- ・ MSは中国ロックダウンからの回復もあり、7月以降回復調
- ・ GCは日本を中心にGX関連向けに増加

**その他売上高**  
前年同期比 +50億円/ +9%

**630億円**

- ・ 試験機がGX関連や輸送機向けに増加
- ・ 環境計測機器が水質分析向けに増加

**アフターマーケット比率**  
前年同期比 +1pt (売上高+55億円)

**38%**

- ・ 新型コロナウイルス検出試薬キットは前年並み
- ・ 消耗品とサービスが増加

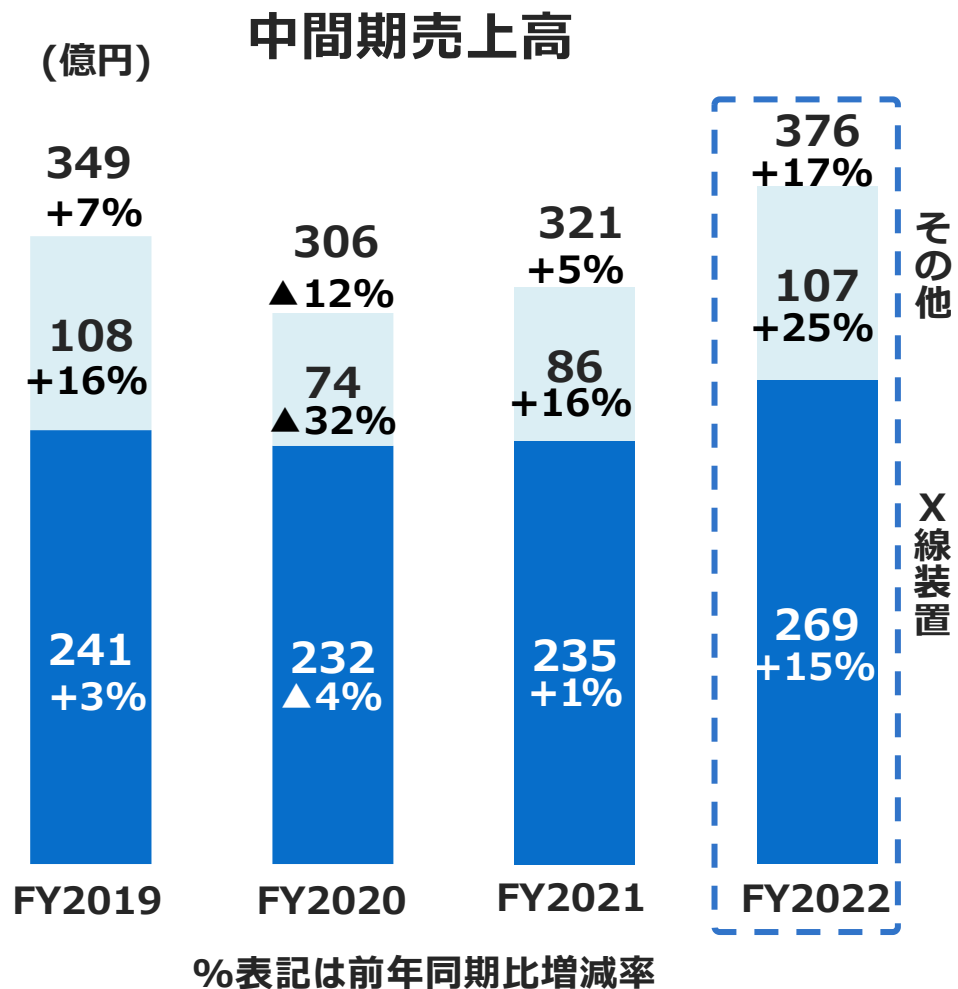
# 計測機器/地域別売上高

- ・国内：GX関連でGCや試験機が増加、新型コロナウイルス関連製品は前年並み
- ・海外：好不調あるも製薬向けにLCが好調。中国は7月以降ロックダウン影響から回復

単位 億円		FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比			概況
					増減額	増減率	増減率 (除為替)	
日本	1Q	171	216	209	▲6	▲3%	▲3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GX関連向けにGCや試験機が増加</li> <li>・新型コロナウイルス検出試薬キットは第2四半期に増加し、上期は前年並み</li> </ul>
	2Q	250	279	291	+12	+4%	+4%	
	中間期	421	495	501	+6	+1%	+1%	
海外	1Q	323	370	408	+38	+10%	▲10%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国が7月以降ロックダウン影響から回復。欧州を除くすべての地域で業績拡大</li> </ul>
	2Q	354	441	506	+64	+15%	+1%	
	中間期	677	811	914	+103	+13%	▲4%	
北米	1Q	54	73	71	▲1	▲2%	▲16%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の大手顧客向けLCや、新型コロナウイルス検出試薬キットが減少</li> <li>・製薬向けにLCが成長。超臨界流体クロマトグラフは製薬市場開拓に貢献</li> <li>・輸送機向けに試験機や、水質汚染問題が注目され、MSや環境計測機器が増加</li> </ul>
	2Q	69	78	87	+10	+12%	▲9%	
	中間期	123	150	159	+8	+5%	▲13%	
欧州	1Q	49	63	71	+8	+13%	+8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア向け事業が減少</li> <li>・製薬向けにLCが成長。超臨界流体クロマトグラフは製薬市場開拓に貢献</li> <li>・臨床向けの規制強化に迅速に対応し、LCとMSが増加</li> </ul>
	2Q	64	75	74	▲1	▲1%	▲8%	
	中間期	113	138	145	+8	+5%	▲1%	
中国	1Q	137	169	145	▲24	▲14%	▲28%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月以降はロックダウン影響から回復。医薬向けLC、臨床検査向けMSが増加</li> </ul>
	2Q	145	158	215	+57	+36%	+9%	
	中間期	281	328	360	+33	+10%	▲10%	
その他の アジア	1Q	51	65	89	+24	+37%	+20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬、輸出食品の検査向けにLC、MSが増加</li> </ul>
	2Q	70	78	97	+19	+25%	+4%	
	中間期	121	142	186	+43	+30%	+11%	

# 医用機器/機種別売上高・アフターマーケット比率

X線TVと血管撮影システムの新製品が業績に貢献。北米も新製品販売が増加



**その他**

放射線治療用動体追跡システム SyncTrax

TOF-PET装置 BresTome

**X線装置**

X線TVシステム FLEXAVISIONF4

近接型X線TVシステム FLUOROsPEED X1

血管撮影システム Trinias

一般撮影システム RADspeedPro

**X線装置売上高**  
前年同期比 +34億円/ +15%

**269億円**

- 海外販売が牽引し、売上高過去最高を更新
- 新製品(X線TV、血管撮影システム)が増加
- 北米では近接型X線TVが増加

**その他売上高**  
前年同期比 +22億円/ +25%

**107億円**

- 放射線治療用動体追跡システム等が増加
- TOF-PET装置BresTome初号機納入

**アフターマーケット比率**  
前年同期比▲2pt (売上高+11億円)

**34%**

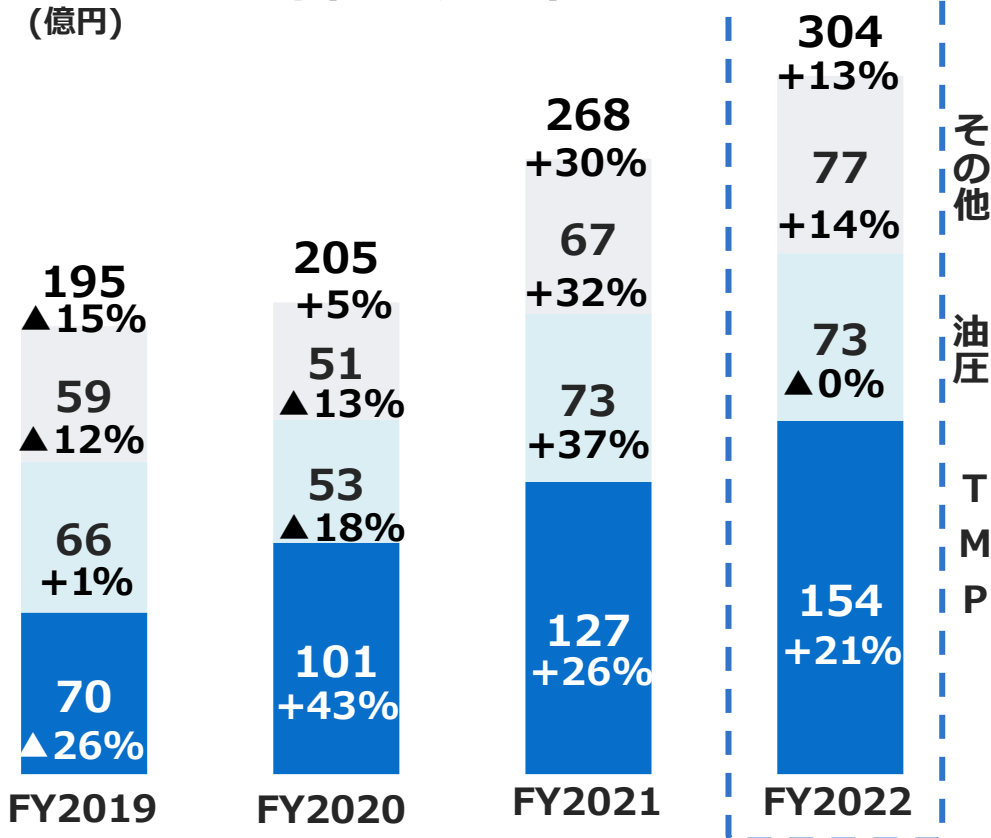
- アフターマーケット売上高は増加
- 製品売上高が伸長し、比率は低下

# 産業機器 / 機種別売上高・TMPアフターマーケット比率

TMPが半導体製造装置、コーティング向けに好調。ガラスワインダがプラスチック強化材向けに増加

## 中間期売上高

(億円)



%表記は前年同期比増減率

### その他

工業炉  
ガラスワインダ  
バランスー

### 油圧機器

ギヤポンプ  
コントロールバルブ

### ターボ分子ポンプ (TMP)

電源一体型  
電源別置き型

### TMP売上高

前年同期比+27億円/+21%

## 154億円

- ・ 半導体製造装置向けが好調
- ・ 建材ガラス・薄膜太陽電池製造装置向けも増加

### TMPアフターマーケット比率

前年同期比▲2pt (売上高+1億円)

## 15%

### 油圧機器売上高

前年同期比 ▲0億円/ ▲0%

## 73億円

- ・ 日本の特装車両向け、中国のフォークリフト需要が減少

### その他売上高

前年同期比 +10億円/ +14%

## 77億円

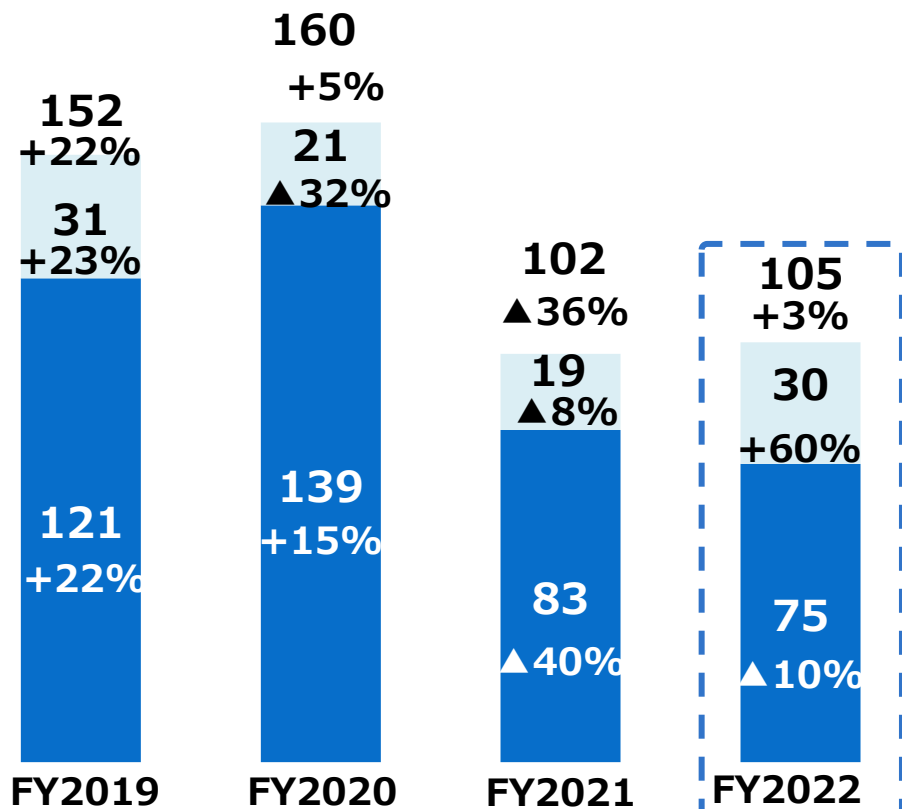
- ・ プラスチック強化材向けガラス繊維の需要拡大により、ガラスワインダが増加

# 航空機器/分野別売上高

民間航空機分野は、社会経済活動の再開とともに航空旅客機向け需要が回復

## 中間期売上高

(億円)



**防衛分野売上高**  
前年同期比 ▲9億円/ ▲10%  
**75億円**

- ・ 前年の大口案件の反動で減少
- ・ 不採算製品の整理を推進

**民間航空機分野売上高**  
前年同期比 +11億円/ +60%  
**30億円**

- ・ 旅客需要が回復し、中小型機向けの搭載機器に加え、補用品等のアフターマーケット売上高が増加

# 03 2022年度通期業績予想

## 事業環境

ウクライナ戦争の長期化、半導体をはじめとしたサプライチェーンの混乱、世界的なインフレ、為替レートの変動等、経済に影響する様々な課題が継続し、不透明な状況が続くものと予想

	全社	計測	医用	産業	航空
事業環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>部品・部材不足は年内に緩和見込み</li> <li>部品部材価格の高騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬を中心としたヘルスケア分野、GX分野の需要が拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本では補正予算が減少</li> <li>北米では人件費高騰を含むインフレが医療機関経営を圧迫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体製造装置向け市場は、2023年1月以降勢いが鈍化見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間航空機向け需要が回復基調</li> </ul>
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル部品調達の強化</li> <li>1月から設計変更品の生産開始</li> <li>価格改定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点機種の新製品を拡販</li> <li>北米製薬向け事業の強化、グローバルアカウントの開拓</li> <li>臨床事業の強化</li> <li>GX関連事業の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品を軸にX線TV、血管撮影システムなどを拡販</li> <li>ソフトウェアのサブスクリプション事業を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TMPは半導体製造装置やコーティング市場向けに取り組みを強化</li> <li>アフターマーケット事業の強化</li> <li>生産の効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間航空機向け需要拡大に応じた生産対応の推進</li> </ul>

# 通期業績予想

売上高、営業利益ともに3期連続で過去最高の更新を目指す

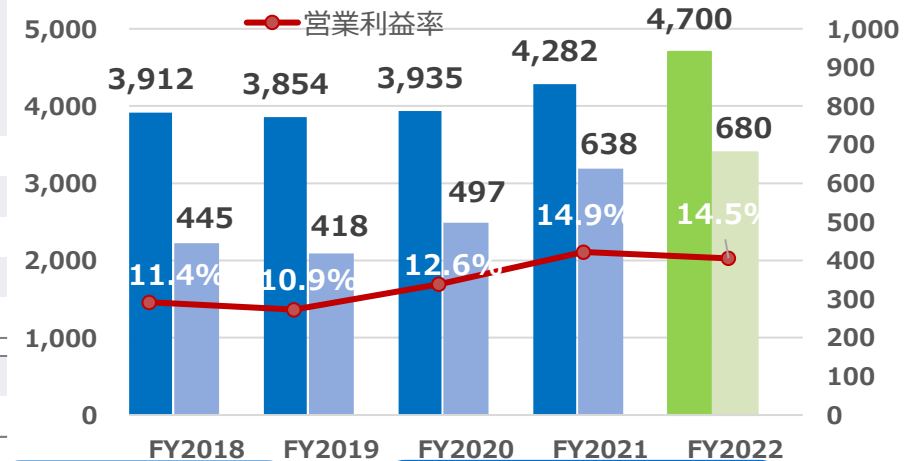
**売上高（上方修正+150億円）**  
 前期比：+418億円/ +10%  
**4,700億円**

**営業利益**  
 前期比：+42億円/ +7%  
**680億円**

**営業利益率**  
 前期比：▲0.4pt  
**14.5%**

業績	単位：億円	通期				前回予想比		前期比	
		FY2020	FY2021	FY2022 前回予想	FY2022 新予想	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高		3,935	4,282	4,550	4,700	+150	+3%	+418	+10%
営業利益		497	638	680	680	+0	+0%	+42	+7%
営業利益率		12.6%	14.9%	14.9%	14.5%	▲0.5pt		▲0.4pt	
経常利益		484	656	680	680	+0	+0%	+24	+4%
親会社株主に帰属する当期純利益		361	473	490	490	+0	+0%	+17	+4%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	106.11	112.43	115.00	130.00	+15.00	+13%	+17.57	+16%
	ユーロ(円)	123.75	130.60	130.00	135.00	+5.00	+4%	+4.40	+3%
	研究開発費	157	163	190	190	+0		+27	
	設備投資額	145	164	240	240	+0		+76	

売上高・営業利益推移(5年間) 単位：億円 ■売上高 ■営業利益 ●営業利益率



**減価償却費**

170億円

**為替感応度**

米ドル  
 売上高：12億円  
 営業利益：4億円

ユーロ  
 売上高：2億円  
 営業利益：0.7億円

**配当金** 中間配当22円（前年20円）年間50円（前年48円）予想から変更なし  
 配当性向は30.1%



# 通期セグメント別業績予想

## 全セグメント増収増益を目指す

**計測機器：増収増益**  
 売上高：+10%  
 営業利益：+8%  
 営業利益率：▲0.4pt

**医用機器：増収増益**  
 売上高：+14%  
 営業利益：+0%  
 営業利益率：▲1.1pt

**産業機器：増収増益**  
 売上高：+9%  
 営業利益：+4%  
 営業利益率：▲0.5pt

**航空機器：増収増益**  
 売上高：+3%  
 営業利益：4.2倍  
 営業利益率：+1.6pt

- ヘルスケア分野の需要を取り込む
- 新製品を拡販(Nexera XS Inert、LCMS-2050等)
- GX関連事業を強化

- 日本、北米、その他アジアを中心に血管撮影システム、X線TVの新製品を拡販
- ソフトウェアのサブスクリプション事業を強化

- 半導体製造装置新規アカウント向けTMPを拡販
- 新規に中国TMPサービスセンターを開設しアフターマーケット事業を強化
- TMP・油圧機器の生産体制強化

- 民間航空機向け需要が回復
- アフターマーケット需要を取り込み、採算性改善を図り黒字確保

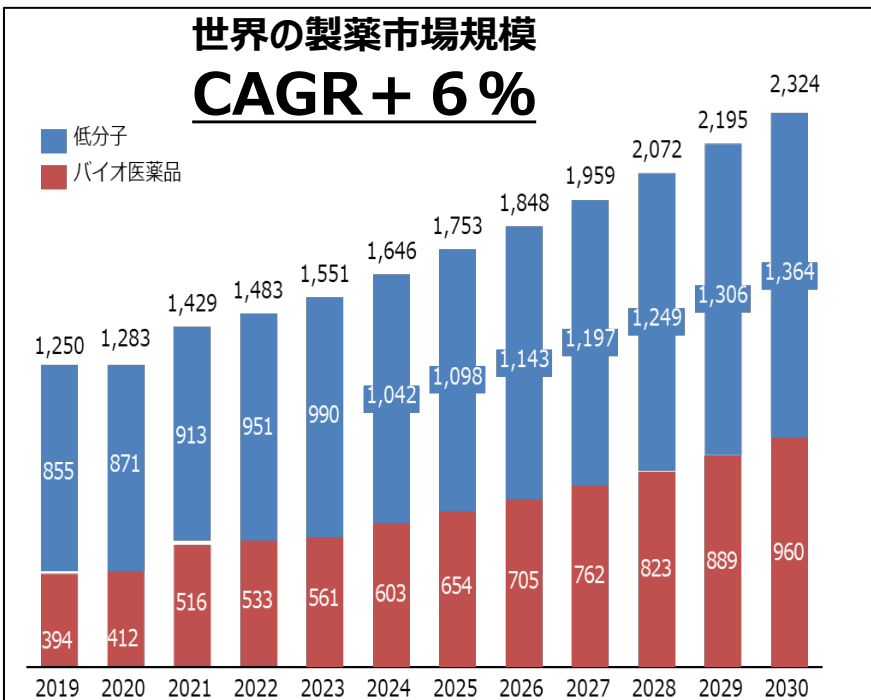
単位: 億円	売上高						営業利益						営業利益率			
	FY2021	FY2022 前回予想	FY2022 新予想	前回予想比 増減額	前期比		FY2021	FY2022 前回予想	FY2022 新予想	前回予想比 増減額	前期比		FY2021	FY2022 前回予想	FY2022 新予想	前期比 増減
					増減額	増減率					増減額	増減率				
計測機器	2,775	2,920	3,050	+130	+275	+10%	530	565	570	+5	+40	+8%	19.1%	19.3%	18.7%	▲0.4pt
医用機器	669	730	760	+30	+91	+14%	61	57	61	+4	+0	+0%	9.1%	7.8%	8.0%	▲1.1pt
産業機器	567	630	620	▲10	+53	+9%	60	72	62	▲10	+2	+4%	10.5%	11.4%	10.0%	▲0.5pt
航空機器	223	225	230	+5	+7	+3%	1	1	5	+4	+4	+324%	0.5%	0.5%	2.2%	+1.6pt
その他	47	45	40	▲5	▲7	▲15%	13	14	10	▲4	▲3	▲20%	18.1%	21.2%	16.7%	▲1.4pt
調整額	-	-	-	-	-	-	▲26	▲29	▲28	+1	▲2	-	-	-	-	-
合計	4,282	4,550	4,700	+150	+418	+10%	638	680	680	+0	+42	+7%	14.9%	14.9%	14.5%	▲0.4pt

## 04 トピックス

- 「人の健康」への取り組み（ヘルスケア）
  - ・ 製薬市場戦略（北米）
  - ・ 日水製薬買収による臨床診断、微生物検査、細胞関連事業の強化
  - ・ 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と共に

# 「人の健康」への取り組み 製薬市場戦略（北米）

- セミ分取超臨界LCなど特徴のある新製品の投入効果により、製薬向けが前年同期比 約+20%
- 今後、北米開発センター設置など開発機能を強化し、ユーザーニーズに即した製品・サービスの提供を目指す



出典：FROST & SULLIVAN Global Pharmaceuticals Outlook, 2022, January 2022

- 製薬企業の主要上位30社の研究開発投資額の大部分は、北米と欧州で占められる
- 今後は、バイオ医薬品のシェアが一層高まり、特に核酸医薬の成長が大きい

## 現在の取り組み

- セミ分取超臨界LC（前年同期比 2 倍の売上）や、高効率多流路LCMSシステム（前年同期比 2 倍の売上）など他社にない新製品の拡販
- 製薬専任営業の増員・強化を行い、サポート力を強化
- 北米シリコンバレーに社員を派遣、現地スタートアップ企業との連携を進める

### 主な新製品



セミ分取超臨界流体クロマトグラフ  
「Nexera UC Prep」



高効率多流路LCMS  
「Nexera QX」

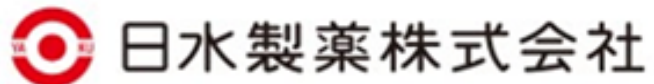


核酸医薬、バイオ医薬向けLC  
「Nexera XS inert」

## 今後の展開

- 核酸向け（製薬・CDMO）製品ラインアップ拡大、製薬・CDMOとの協業
- 業務提携やM&Aの推進
- アプリケーションラボの拡大・機能強化
- 製品開発センターを設置し、顧客ニーズに即した製品を提供

# 「人の健康」への取り組み 日水製薬買収による臨床診断、微生物検査、細胞関連事業の強化①



## 日水製薬の概要

- 創業 : 1935年4月
- 従業員 : 250名
- 業績(2021) : 売上高16,657百万円  
 営業利益1,564百万円 営業利益率9.4%
- 拠点 : 本社(東京)、研究所・主力工場(茨城県)
- 子会社 : 1社(仏/再生医療向け製品の販売機能)
- 事業内容



### 臨床診断薬

- 体外診断用医薬品と医療機器の提供
- 国内医療機関検査部門と太いパイプ



### 微生物検査

- 日本有数の菌株種を保有
- 全自動迅速感受性装置を開発・販売



### 細胞関連

- 培地メーカー国内トップ
- 食品分野ユーザー会員1万人以上

- 日水製薬の保有する臨床市場における販路および試薬関係の技術、製造、薬機取得機能を獲得しヘルスケア領域での事業を加速
- シナジー創出が期待できる臨床診断、微生物検査、細胞関連の分野を強化する。

### 臨床診断

病院検査部で行われる臨床検査

### 微生物検査

病院内での疾患原因菌の特定と薬効の確認

### 細胞関連

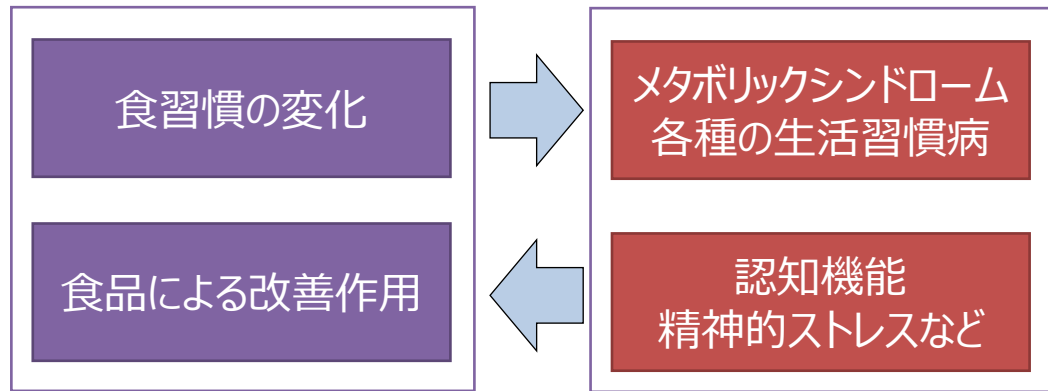
再生医療分野等での培地販売と細胞培養受託や解析評価

# 「人の健康」への取り組み 日水製薬買収による臨床診断、微生物検査、細胞関連事業の強化②

	臨床診断	微生物検査（臨床・食品）	細胞関連事業（再生医療・研究）
短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日水製薬の既存顧客に対して当社製品の販売(PCR、LCMSなど)</li> <li>▶ 日水製薬との連携により全自動PCR装置向け試薬キットを開発/製造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 食品微生物検査用培地(コンパクトドライ)の海外展開</li> <li>▶ 日水製薬の同定感受性試験装置の拡販と、グループサービス会社によるサポート強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日水製薬の培地を当社顧客へ販売</li> <li>▶ 日水製薬販路を活用し細胞関連事業を拡大</li> </ul>
中長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日水製薬との連携により質量分析計プラットフォーム用のiVD検査キットを開発/製造</li> <li>▶ 相互の強みを生かした開発/生産/販売体制を構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日水製薬保有菌株活用による微生物同定MALDIの製品力を強化</li> <li>▶ 微生物検査分野で必要な商材の共同開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日水製薬のカスタム培地の販売と当社装置による培地品質の向上による信頼性/価値向上による拡販</li> </ul>



# 「人の健康」への取り組み –食による健康長寿社会の実現を目指して– 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下農研機構）と共に




農林水産物や加工食品の持つ機能性を科学的に解明

食生活により健康で豊かな生活を享受出来る社会

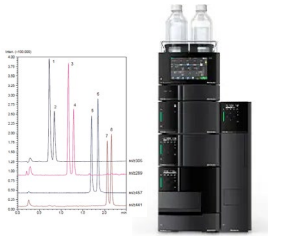
**農研機構 NARO × 島津製作所**

科学的アプローチにより新しい健康機能性の解明、健康機能性の品質保証方法（測定・分析・評価）の開発

**8種類の農産物中機能性成分の分析法を開発**  
例) 茶葉に含まれるカテキン類の定量分析法



- 10種類のカテキン類を同時分析可能
- JAS規格の単一成分分析法と比較し、より正確で総合的なお茶の機能性評価が可能



超高速液体クロマトグラフ Nexeraシリーズ

**ScF 一般社団法人 セルフケアフード協議会 Self Care Food Council**

2022年4月に農研機構と当社で設立。国民の健康長寿社会実現に向けた活動を通じ、食品業界共通の課題を科学技術で解決し社会に貢献

**ワーキング活動**

- 統合健康栄養食品制度の運用に関する事業
- 国民の健康長寿に寄与する飲料食品の開発を支援する事業
- 健康食品市場における国際連携に関わる事業

例) 食と健康の相関について臨床試験実施を目指し、「世界初の食によるヘルスケア(認知機能エビデンス)拠点」を設立予定

# 背表紙



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所

コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ

電話：075-823-1673

E-Mail：[ir@group.shimadzu.co.jp](mailto:ir@group.shimadzu.co.jp)

# 補足資料



# 損益計算書 (7-9月)

**売上高**  
前年同期比：+155億円/+14%  
**1,233億円**

**営業利益**  
前年同期比：+30億円/+19%  
**195億円**

**営業利益率**  
前年同期比：+0.6pt  
**15.8%**

**当期純利益**  
前年同期比：+41億円/+34%  
**158億円**

	単位：億円	第2四半期(7月-9月)		前年同期比	
		FY2021	FY2022	増減額	増減率
業績	売上高	1,078	1,233	+155	+14%
	営業利益	164	195	+30	+19%
	営業利益率	15.2%	15.8%	+0.6pt	-
	経常利益	166	210	+44	+26%
	親会社株主に帰属する当期純利益	118	158	+41	+34%
為替	平均為替レート：米ドル (円)	110.17	138.40	+28.23	+26%
	ユーロ (円)	129.87	139.40	+9.53	+7%
	研究開発費	38	44	+6	
	設備投資額	42	63	+21	

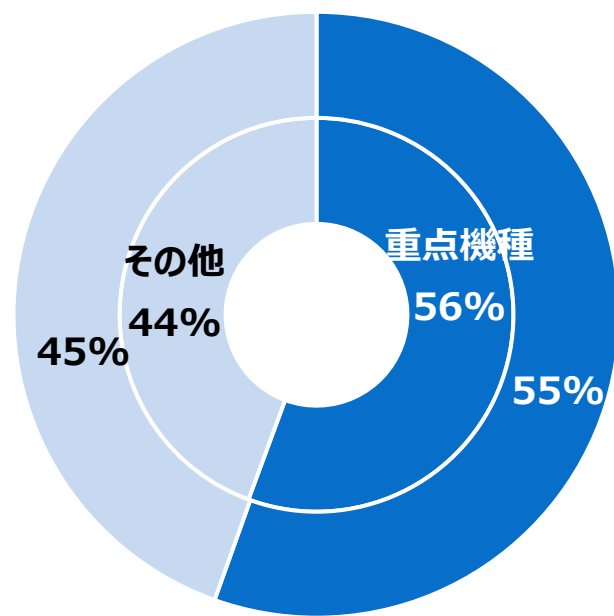
減価償却費  
**43億円**

為替影響額

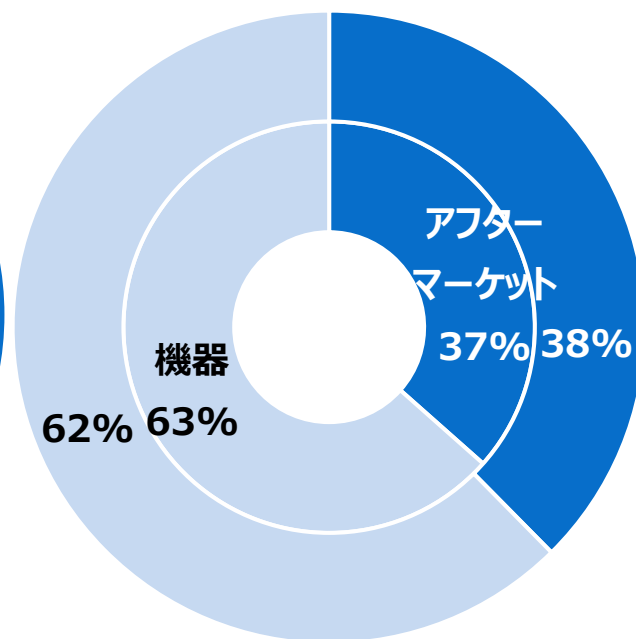
売上高：121億円 営業利益：32億円  
海外在庫増に対する為替影響はマイナスに作用

# 計測機器/各種売上高構成比率（4-9月）

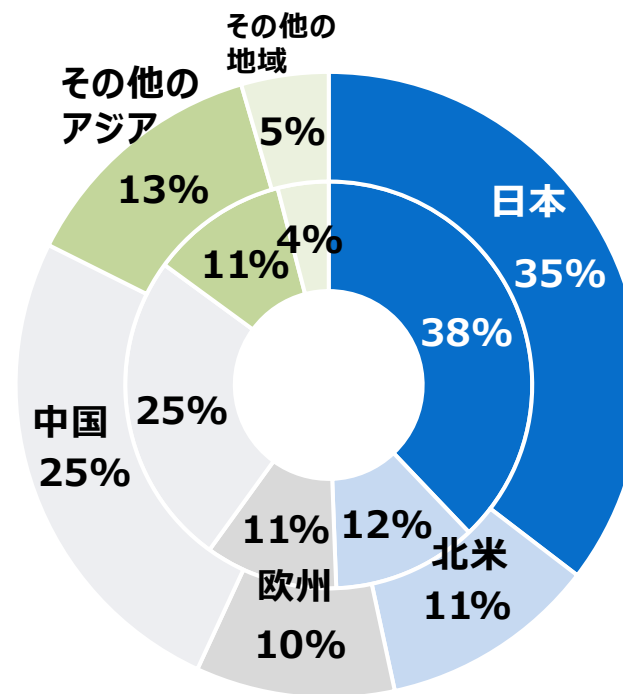
## 機種別



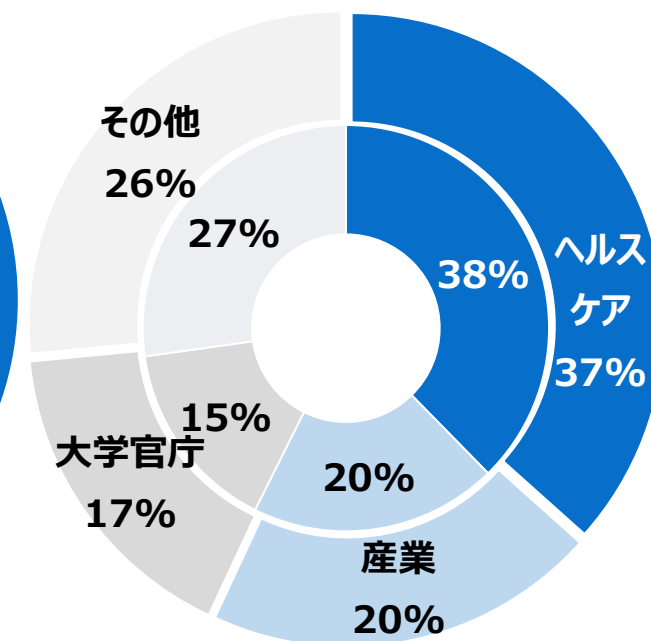
## 機器/アフターマーケット



## 地域別



## 市場別



※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

# 計測機器/重点機種売上高前年同期比

部品・部材不足の影響を受ける。中国ロックダウン影響は7月から回復

為替影響を含む	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
重点機種	▲4%	+5%	+6%	+21%	+7%	+24%	+10%	+10%	+3%	+11%	+2%	+14%
全体	▲4%	▲3%	+6%	+19%	+5%	+29%	+12%	+9%	+4%	+12%	+1%	+15%

為替影響を除く*	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
重点機種	▲5%	+2%	+11%	+22%	+8%	+20%	+7%	+4%	▲3%	+6%	▲9%	▲2%
全体	▲7%	▲4%	+10%	+19%	+5%	+25%	+9%	+4%	▲0%	+8%	▲8%	+3%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

\*FY2020は為替及び収益認識基準の影響を除外して比較

# 計測機器/地域別売上高前年同期比

日本はPCR関連増加。北米は大手顧客向けLC及びPCR試薬が減少。欧州はロシア向け減少。中国はロックダウン影響から回復。

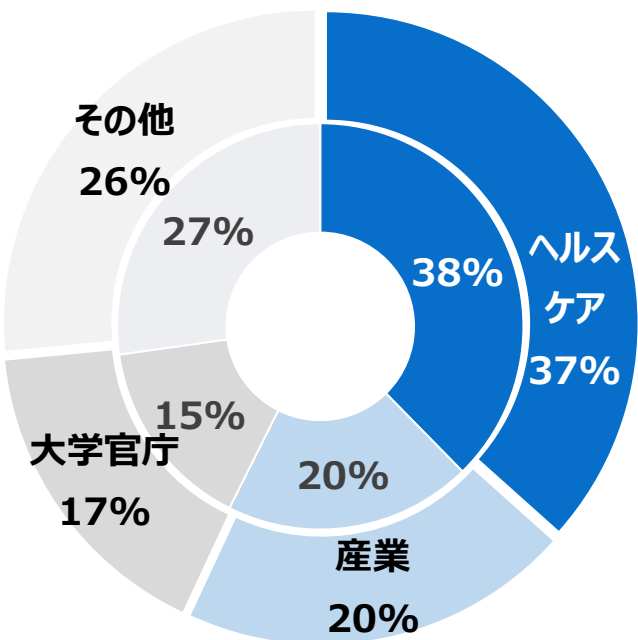
為替影響を含む	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	+1%	▲13%	+11%	+14%	+3%	+26%	+12%	+4%	+3%	+9%	▲3%	+4%
北米	▲7%	+11%	▲10%	+3%	▲1%	+35%	+12%	+2%	+9%	+13%	▲2%	+12%
欧州	▲9%	▲3%	+8%	+18%	+4%	+28%	+17%	+9%	▲2%	+11%	+13%	▲1%
中国	+10%	+15%	+11%	+59%	+20%	+24%	+9%	+9%	▲2%	+10%	▲14%	+36%
その他のアジア	▲24%	▲1%	+6%	+21%	▲0%	+27%	+10%	+18%	+14%	+17%	+37%	+25%
インド	▲30%	+16%	+5%	+19%	+3%	+4%	+3%	+4%	+12%	+6%	+50%	+22%

為替影響を除く*	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	▲11%	▲15%	+15%	+11%	+1%	+26%	+12%	+4%	+3%	+9%	▲3%	+4%
北米	▲4%	+13%	▲8%	+5%	+1%	+31%	+7%	▲7%	+0%	+7%	▲16%	▲9%
欧州	▲5%	▲5%	+5%	+11%	+2%	+15%	+11%	+4%	▲4%	+5%	+8%	▲8%
中国	+12%	+14%	+18%	+74%	+25%	+22%	+5%	▲0%	▲12%	+4%	▲28%	+9%
その他のアジア	▲25%	▲9%	+5%	+25%	▲2%	+22%	+6%	+10%	+6%	+10%	+20%	+4%
インド	▲35%	▲4%	+4%	+22%	▲3%	+2%	▲0%	▲3%	+3%	+0%	+27%	▲2%

※インドはその他のアジアの内数  
\*FY2020は為替及び収益認識基準の影響を除外して比較

# 計測機器/市場別売上高比率 (4-9月)

## 市場別売上構成比

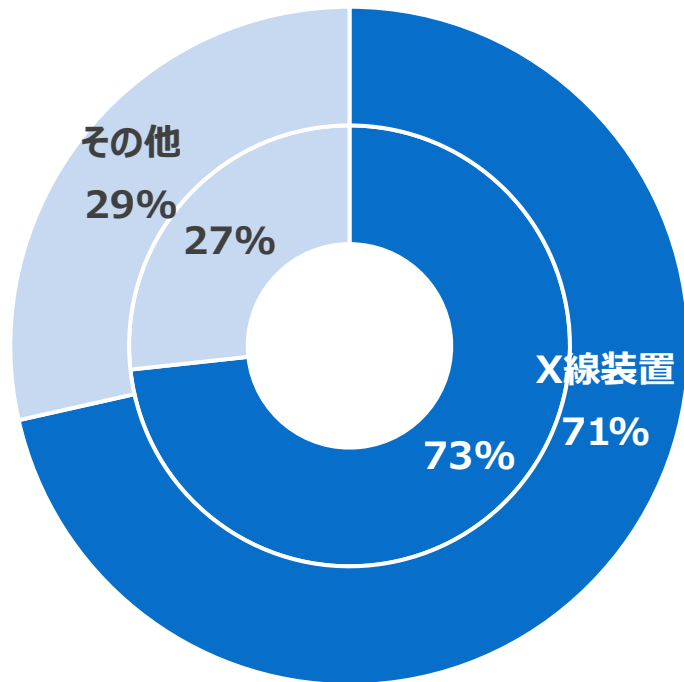


市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2021	FY2022		
<b>ヘルスケア</b> ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	38%	37%	+5%	・医薬品、食品向けが牽引 ・LCが市場成長を支える ・欧米を中心に医薬が堅調。中国はロックダウンの影響を受けた
<b>産業関連</b> ●化学・素材 ●電機 ●自動車	20%	20%	+11%	・産業関連はGX関連の後押しもあり、全般的に復調傾向 ・特に、日本、北米で輸送機向けに試験機が増加 ・中国ロックダウンの影響を受けた
<b>大学・官公庁</b>	15%	17%	+16%	・大学、官公庁ともに成長 ・北米は大口案件の取り込みに注力 ・中国の大学市場はロックダウンから回復基調

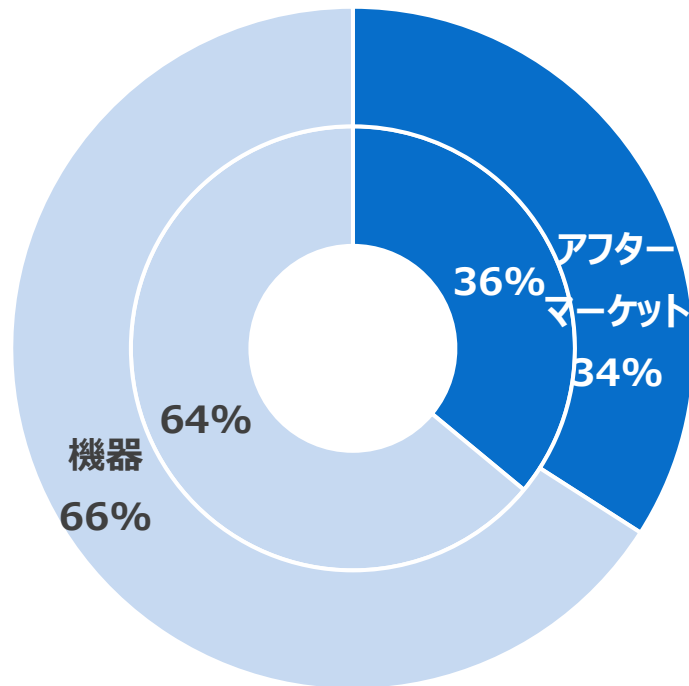
※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

# 医用機器/各種売上高構成比率 (4-9月)

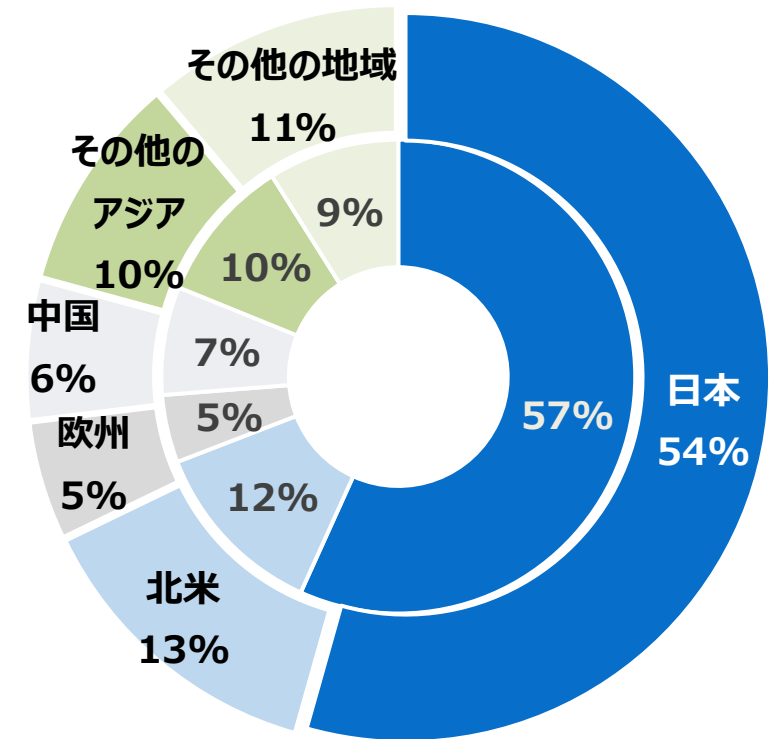
機種別



機器/アフターマーケット



地域別



※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

## 医用機器/地域別売上高（4-9月）

- ・国内：X線TVシステム、血管撮影システム、放射線治療用動体追跡システムが増加
- ・海外：中国はロックダウン影響や部品・部材不足の影響により減少。北米は新製品販売が牽引し、増加

単位 億円	FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比			概況	
				増減額	増減率	増減率 (除為替)		
日本	1Q	67	83	94	+11	+13%	+13%	・医療機関の設備投資が回復し、X線TVシステムや血管撮影システムが増加 ・放射線治療用動体追跡システムが増加
	2Q	92	99	111	+12	+12%	+12%	
	中間期	159	182	205	+23	+12%	+12%	
海外	1Q	64	62	70	+8	+14%	▲0%	・中国はロックダウン影響や部品・部材不足の影響により減少するものの、北米では新製品のX線TVや、欧州で一般撮影装置システムが増加
	2Q	83	77	101	+25	+32%	+10%	
	中間期	147	139	172	+33	+24%	+5%	
北米	1Q	20	20	21	+1	+4%	▲12%	・新製品の近接型X線TVが増加
	2Q	23	19	30	+10	+52%	+22%	
	中間期	43	40	51	+11	+28%	+5%	
欧州	1Q	8	7	8	+0	+5%	+0%	・ロシア以外で、一般撮影装置システムが増加
	2Q	12	7	12	+4	+61%	+50%	
	中間期	21	15	20	+5	+33%	+25%	
中国	1Q	13	10	11	+1	+12%	▲6%	・ロックダウンや部品・部材不足の影響を受けた ・入札案件の停滞が目立つ
	2Q	13	14	12	▲2	▲12%	▲30%	
	中間期	27	24	23	▲0	▲2%	▲20%	
その他の アジア	1Q	10	12	13	+1	+10%	▲2%	・東南アジアでX線TVシステム、インドで血管撮影システムが増加
	2Q	19	20	23	+3	+16%	▲4%	
	中間期	29	32	36	+4	+14%	▲3%	

# 医用機器/地域別売上高前年同期比

北米では新製品の近接型X線TVが増加。国内では新製品の血管撮影システムが増加  
 欧州では、東欧向けに一般撮影装置が増加。中国はロックダウン影響を受け減少

為替影響を含む	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	▲17%	▲35%	▲7%	+8%	▲14%	+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%	+13%	+12%
北米	+12%	+28%	+21%	▲2%	+14%	+3%	▲16%	+11%	+14%	+2%	+4%	+52%
欧州	+15%	+33%	+54%	+5%	+29%	▲13%	▲39%	▲33%	▲12%	▲27%	+5%	+61%
中国	+76%	▲23%	+20%	▲22%	+1%	▲25%	+3%	▲11%	▲10%	▲11%	+12%	▲12%
その他のアジア	▲2%	+56%	▲18%	+29%	+15%	+16%	+7%	+26%	▲22%	+4%	+10%	+16%

為替影響を除く*	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
日本	▲15%	▲33%	▲1%	+7%	▲12%	+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%	+13%	+12%
北米	+14%	+29%	+26%	+1%	+16%	+2%	▲19%	+2%	+5%	▲3%	▲12%	+22%
欧州	+19%	+30%	+51%	▲3%	+27%	▲21%	▲42%	▲36%	▲14%	▲31%	+0%	+50%
中国	+34%	▲33%	+29%	▲25%	▲7%	▲27%	▲1%	▲18%	▲18%	▲16%	▲6%	▲30%
その他のアジア	▲9%	+17%	▲4%	+20%	+6%	+15%	+5%	+18%	▲28%	▲0%	▲2%	▲4%

\*FY2020は為替及び収益認識基準の影響を除外して比較



# 産業機器/機種別売上高前年同期比

TMPは好調が継続。油圧は日本の特装車向け、中国市場の縮小によりマイナス

為替影響を含む	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
TMP	+48%	+37%	+6%	+9%	+22%	+16%	+38%	+50%	+27%	+32%	+20%	+22%
油圧	▲20%	▲17%	+7%	+6%	▲6%	+37%	+37%	+21%	+5%	+24%	▲1%	+1%
その他	▲2%	▲21%	+16%	▲16%	▲7%	+33%	+32%	▲3%	+18%	+17%	+17%	+12%

為替影響を除く*	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
TMP	+46%	+36%	+7%	+9%	+21%	+13%	+35%	+44%	+22%	+28%	+11%	+11%
油圧	▲19%	▲17%	+7%	+6%	▲6%	+34%	+34%	+18%	+3%	+21%	▲6%	▲4%
その他	▲7%	▲20%	+14%	▲16%	▲8%	+32%	+30%	▲6%	+14%	+15%	+7%	+1%

\*FY2020は為替及び収益認識基準の影響を除外して比較

# アフターマーケット（AM）比率

計測	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
AM売上高前年同期比	+1%	+4%	+12%	+22%	+10%	+33%	+16%	+4%	+6%	+13%	▲6%	+5%
AM比率	37%	33%	35%	33%	34%	38%	35%	35%	35%	36%	39%	36%

医用	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
AM売上高前年同期比	+1%	▲8%	+14%	+5%	+3%	+14%	+9%	+2%	+1%	+6%	▲2%	+3%
AM比率	37%	32%	32%	31%	33%	38%	35%	39%	32%	36%	36%	32%

TMP	FY2020					FY2021					FY2022	
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q
AM売上高前年同期比	+12%	+3%	+11%	+6%	+8%	+18%	+11%	+15%	+5%	+12%	▲1%	▲6%
AM比率	17%	21%	19%	18%	19%	17%	17%	15%	15%	16%	15%	14%

※FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較  
FY2021, FY2022は為替影響を除外